

2026年6月11日

報道関係各位  
プレスリリース

株式会社ドリーム・アーツ

**ドリーム・アーツ、AI 実践化コンセプトの最新版「DAPA 2.0」を発表  
～「意味の DX」で、SmartDB を AI Ready データ生成基盤へ進化～**

大企業向けクラウドサービスの株式会社ドリーム・アーツ（東京本社：東京都渋谷区、広島本社：広島県広島市、代表取締役社長：山本 孝昭、以下 ドリーム・アーツ）は、このたび AI を実践的に活かすためのコンセプト「**DAPA® (DreamArts Practical AI®: ダーパ)**」の最新版として、「**DAPA® 2.0**」を発表します。

**DAPA®**は、AI を実務・実践・実用的に活かすための、ドリーム・アーツの根本コンセプトです。2025年6月発表の第一弾以来、「AI をどう業務に活かすか」という問いに継続的に取り組むための枠組みとして位置付けられ、アップデートを重ねていきます。その最新版である「**DAPA® 2.0**」は、業務デジタル化クラウド「**SmartDB® (スマートデービー)**」に焦点を当て、業務データに意味・文脈・権限を備えさせる「意味の DX (Semantic DX)」によって、**SmartDB®**を「AI Ready データ生成基盤」へと進化させる道筋を示すものです。

**DAPA® 2.0**では、ドリーム・アーツが20年にわたり築いてきた「重要業務データ」と「権限管理台帳」という2つの優位性に加え、AI や AI エージェントが安全かつ実務的に利用できる「AI Ready データ」を業務を通じて継続的に生み出すことで、新たな競争優位の獲得を目指します。

また、この基盤を支える中核技術としてベクトル化を2026年内、セマンティック技術を2027年6月までに **SmartDB®**に順次実装する計画です。

**■本リリースのポイント**

- **SmartDB®**を、業務を記録するシステム (SoR: System of Record) から、組織の意思決定を支援するシステム (**SoDI: System of Decision Intelligence**) へ進化させる構想「**DAPA® 2.0**」を発表
- その中核は、業務データに意味・文脈・権限を備えさせる「**意味の DX (Semantic DX)**」と、その成果物である「AI Ready データ」
- 構想にとどまらず、中核技術 (ベクトル化/セマンティック技術) の実装に順次着手。第一弾の始動はこの1年以内を予定

**■背景：AI 活用の次の壁は「意味」と「文脈」**

多くの企業が AI を導入する一方で、「AI を導入したが業務で十分に活用できていない」という

声も少なくありません。その要因のひとつは AI モデルの優劣ではなく、AI に渡す業務データの質です。「なぜその判断に至ったか」という経緯が欠落している、部門やシステムを横断した文脈が繋がっていない、「稟議」「回付」「決裁権限」といった組織固有の業務語彙の意味を汎用 AI が持たない。こうした課題が、成果の差を産んでいます。

「データがある」と「意味がわかる」ことは別物です。ドリーム・アーツは従来の DX が進めてきた「デジタル化・可視化・蓄積・連携」の次のステージとして、データそのものに意味や文脈を持たせる「意味の DX」を推進することが必要であると考えています。

## ■DAPA 2.0 : SmartDB を「AI Ready データ生成基盤」へ——“第三の角”

ドリーム・アーツは、SmartDB®のリリースから 20 年、他社が容易に真似できず優位性を保てる領域、いわゆる「オセロゲームの角」はどこか、という発想で持続的な競争優位を築いてきました。

- 角 1 「データ」：大企業の重要業務データを格納する中核基盤になること
- 角 2 「ユーザーマスタ・権限管理台帳」：グループ会社・系列・協力会社の外部人材まで含む、日本の大企業に固有の複雑な組織・権限構造を扱えること

この 2 つの角が、長期利用・部門展開・全社展開を支える優位性になってきました。そして AI エージェント時代の到来とともに、ここに角 3 「AI Ready データ生成基盤」を加え、新たな競争優位を獲得します。SmartDB®に業務を載せ、日々活用することで、AI が安全に利用できる意味付きの業務データ（AI Ready データ）が継続的に生成されます。これは、角 1 のデータと角 2 の権限管理があるからこそ獲得できる、他社にとって参入障壁の高い領域です。

AI Ready データとは、単に構造化・デジタル化されたデータではなく、業務上の意味・プロセス上の位置づけ・関係性・権限・判断根拠・AI 処理可能な形式という条件を備え、AI や AI エージェントが安全かつ実務的に利用できる状態に整った業務データを指します。

## ■“意味の DX”を支える「2+1」の技術と「実行パス」

意味の DX は、3 つの技術の融合によって現実のシステムとして成立します。

- セマンティック技術（オントロジー+Context Graph）  
データに「意味」と「文脈」を持たせる。オントロジーが業務概念の型（意味の骨格）を定義し、Context Graph<sup>(※1)</sup> が実際の業務・人・組織・履歴のつながり（文脈の神経網）を表します。
- ベクトル化技術  
議事録やコメント、メールなどの大量の非構造データを、AI が意味の近さをもとに判別で

きる数値表現に変換。 RAG や意味検索を支える基盤技術です。

• 権限制御 (+1)

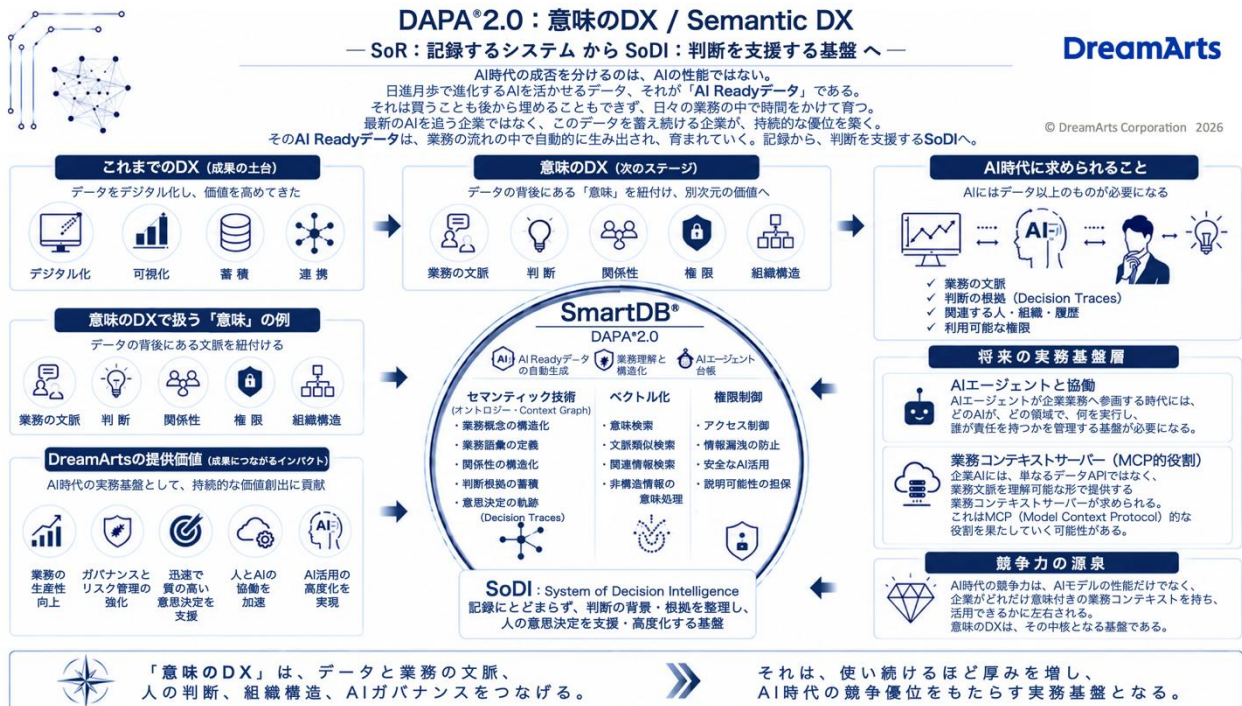
「だれが・なにを・どの業務プロセスの文脈で参照・操作できるか」を制御する、ドリーム・アーツが20年磨いてきた技術。安全なAI活用とガバナンスを担保します。

これらが力を発揮できる前提として、**SmartDB®**の役割があります。CRM やERP が「結果」や「現在の状態」を記録するのに対し、**SmartDB®**は稟議・申請・承認・差し戻し・回付といった業務が実際に進行するプロセスそのもの、つまり**実行パス (Execution Path)** (※2)を担います。そのため、意思決定の瞬間にその経緯や判断の根拠が構造化された記録として日々蓄積されます。これら意思決定の軌跡 (Decision Traces) が、人・組織・案件・契約・文書・承認履歴を横断してつながり、Context Graph として継続的に育成されていきます。

※1 Context Graph (コンテキストグラフ): 意味・関係・状況・履歴・根拠をノードとエッジで表したグラフ構造。業務概念を定義するオントロジーに対し、Context Graph は実際の業務データ・人・組織・履歴・文書がどのようにつながったかを表す。

※2 実行パス (Execution Path): 業務上の意思決定が実際に進行している経路そのもの。稟議・申請・承認・差し戻し・回付といった各ステップが進む場であり、判断の入力・関係者・根拠が同時に発生・記録される位置を指す。

【イメージ: DAPA 2.0: 意味のDX / Semantic DX】



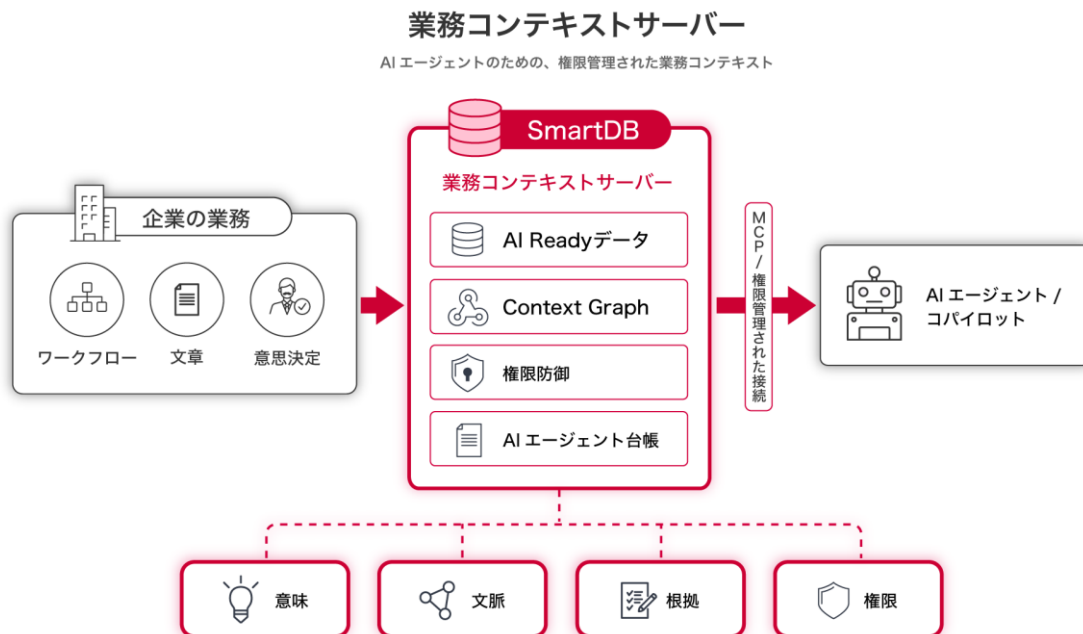
■SoR から SoDI へ、そして「業務コンテキストサーバー」へ

SmartDB®に蓄積された AI Ready データは、AI が文脈を理解しながら現場から経営までそれぞれの意思決定を支援をするための基盤になります。これは、従来の SoR (System of Record) から (SoDI : System of Decision Intelligence) への進化を実現するものです。さらにドリーム・アーツは、SmartDB®を AI エージェントに対して業務データ・権限情報・プロセス文脈を提供する「業務コンテキストサーバー」へと進化させることを目指します。将来的には MCP (Model Context Protocol) などの標準プロトコルを通じた接続も視野に入れていきます。また、人と AI 双方の適切なガバナンスを実現するため、AI エージェントの権限や利用ログを管理する「AI エージェント台帳」という権限管理基盤の実装も推進します。

なお DAPA® 2.0 は、人間の意思決定を AI が置き換えることは想定していません。ドリーム・アーツは一貫して「人と AI の協働 (Human in the Loop<sup>(※3)</sup>)」を原則とし、最終的な判断と責任は人間にあるという考え方を重視しています。

※3 Human in the Loop : AI が自律的に意思決定をおこなうのではなく、人間が最終判断に関与し続ける AI 活用の原則。 DAPA®が一貫して標榜する思想。

【イメージ：SmartDB は業務コンテキストサーバーへ進化】



## ■DAPA 2.0 の実装ロードマップ

DAPA® 2.0 は遠い未来の構想ではなく、具体的な実装計画として進行しています。意味の DX を支える中核技術として、まずは 2026 年以内にベクトル化の第一弾を開始する予定。さらに、2027 年 6 月をめどにセマンティック技術（オントロジーと Context Graph）の第一弾にも着手する計画です。これらは完成形ではなく、DAPA® 2.0 に基づく取り組みの起点となるものです。今後、現場とともに継続的に磨き続けることで SmartDB®を AI Ready データ生成基盤へと進化させます。

## ■中長期の意義（事業・投資家・パートナーの視点）

“第三の角”の獲得は、ドリーム・アーツの中長期的な競争優位の源泉になると考えています。SmartDB®は導入後の利用が深まるほど、業務データ・権限構造・業務語彙が蓄積され、他システムでは再現しにくい「業務コンテキストの厚み」が増していきます。これは時間が経つほど強くなり、顧客にとってのスitchング・コストを高める性質の優位性です。「今 SmartDB®を使っている」ことが、そのまま「AI エージェント時代の競争力を積み上げている」ことと同義になる。この構造が、長期にわたる顧客定着と事業基盤の強化につながると考えています。

DAPA® 2.0 は、ドリーム・アーツが掲げる「デジタルの民主化<sup>(※4)</sup>」という経営の方向性、および中期経営計画 2026-2028 で示す成長戦略とも整合する取り組みです。意味・文脈・権限を伴った業務データを現場の営みのなかから育てていくこの型は、トップダウンの大規模データ整備に頼らず現場の厚みで競争力を積み上げる、日本企業に固有の勝ち筋になりうると考えています。

※4 現場部門（非 IT 部門）が自らデジタルを活用し、全社のデジタル化を加速させること

<https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/democratization/>

## ■株式会社ドリーム・アーツ 代表取締役社長 山本 孝昭 からのコメント

『AI』という言葉はいずれ陳腐化していくでしょう。しかし陳腐化するのは言葉であって、その下にある技術の本質ではありません。私たちが見据えているのは、目先のブームではなく、AI・デジタルという超テクノロジーを現場で活かし続けるための普遍的な基盤づくりです。「意味の DX」は、日本の大企業が AI 時代に世界と伍していくための土俵そのものだと考えています。

## ■関連リンク

- DAPA® 第一弾（2025 年 6 月発表）

<https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/dapa/>

- **SmartDB® Practical AI オプション** (2026年4月リリース)  
<https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/function/ai/>
- **SmartDB® 製品サイト**  
<https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/>

ドリーム・アーツは、今後も“協創”を理念に掲げ、「現場力強化」「企業競争力向上」に役立つトータルソリューションを提供してまいります。



**SmartDB® (スマートデービー) について** <https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/>

SmartDB®は、大企業市場シェア No.1<sup>(※5)</sup>の業務デジタル化クラウドです。現場個別の業務から全社横断業務までノーコードで開発可能。ワークフローとWebデータベースを中心に多彩な機能をもち、柔軟な外部システム連携、きめ細かな権限管理、高度なセキュリティ要件にも対応しています。三菱UFJ銀行やKDDI、ツルハホールディングス、筑波大学など、大企業を中心にあらゆる業種業態のユーザーが利用中です。サービス基盤としてマイクロソフトが提供するクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」を採用し、利用規模の変化やコンテンツの増加にも柔軟に対応できる環境を実現しています。

※5 テクノ・システム・リサーチ「2025年 SaaS型ワークフロー市場メーカーシェア調査」より

**株式会社ドリーム・アーツについて** <https://www.dreamarts.co.jp/>

「協創する喜びにあふれる人と組織と社会の発展に貢献する」をコーポレート・ミッションに掲げるドリーム・アーツは、「協創」を自ら体現することで、顧客の真のソリューションパートナーとして総合的な課題解決をお手伝いしています。

主なサービスとして、大企業向け業務デジタル化クラウド「**SmartDB®**」、多店舗オペレーション改革を支援する「**Shopらん®**」、大企業の働き方を変えるビジネスコックピット「**InsuiteX®**」などのクラウドサービスを開発・提供しています。

---

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ドリーム・アーツ 広報担当 金井・岡

〒150-6029 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー29F

TEL : 03-5475-2501 / 090-9149-3958 E-mail : pr@dreamarts.co.jp

記載されている会社名および商品・サービス名は各社の登録商標または商標です。

©DreamArts Corporation.